

新潟本社行動計画の取り組み状況について

2020年度 第2四半期進捗報告



2020年 10月 16日
東京電力ホールディングス株式会社
新潟本社

目次

1. 安全性向上の取り組み **update**
2. 運営体制の構築の取り組み **update**
3. 防災支援の取り組み
 - ① 緊急時の初動体制
 - ② 新潟県原子力防災訓練への協力 **update**
4. 地域貢献の取り組み
 - ① 長岡技術科学大学との共同研究 **update**
 - ② 地域行事への参加 **update**
5. 傾聴と対話の取り組み
 - ① コミュニケーションブース
 - ② 地域の皆さまへの説明会
 - ③ 発電所視察対応 **update**
 - ④ 広告 **update**

1. 安全性向上の取り組み（1/3）

概要

- 「安全意識」「技術力」「対話力」を向上させるため、原子力安全改革プランを実行
- 新規制基準適合性審査（以下、審査）への真摯な対応
- 福島第一原子力発電所事故の反省を踏まえた安全対策の着実な実施
※個別具体的な取り組み状況について、原子力安全改革プラン進捗報告にて定期的に報告

主な取り組み

<事故を防ぐ>

- 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえた、自主的な安全対策を実施
- 綿密な断層調査による活動性評価及び保守的な基準地震動の策定
- 厳格な審査を通じた、更なる安全性向上と継続的な改善



<止める（事故対応の技術的能力の向上）>

- 事故対応時に迅速・的確な意志決定が図られるよう、米国などの緊急時対応体制である、ICS（災害時現場指揮システム）の考え方を導入
- 過酷な状況を想定し、さまざまなシナリオによる訓練を継続的に実施し、技術的能力を向上



1. 安全性向上の取り組み (2/3)

主な取り組み

<冷やす>

- 電源喪失時も原子炉の冷却が可能となるよう、高圧代替注水設備の設置、消防車や大容量送水車の配備等、冷やす機能を多様化、多重化



<放射性物質を閉じ込める・減らす>

- 既存の除熱システムに加えて、圧力容器と格納容器内の除熱が可能で「代替循環冷却設備」を開発し設置
(審査では、フィルタベントと同等以上の効果があり、ベントに優先して使用すべき設備として評価され、他のBWRプラントにも設置を義務付け)
- 万が一のベントに備え、放射性物質の放出を大幅に低減するフィルタベント装置を設置



<災害対策支援拠点の整備>

- 原子力発電所の災害対策（事故の収束や拡大防止）を支援するため、必要な資機材を保管・調達し、発電所へ送り出したり、対応要員の往來を管理するための拠点
- 当社では、柏崎エネルギーホール、信濃川電力所、当間高原リゾート、出雲崎拠点の4拠点を整備
- 災害対策支援拠点を多重化することで、支援活動を強化

① 柏崎エネルギーホール

② 信濃川電力所

③ 当間高原リゾート

④ 出雲崎拠点

柏崎刈羽原子力発電所

出雲崎町

刈羽村

長岡市

柏崎市

小千谷市

十日町市

出典：国土地理院電子国土Webシステム

2. 運営体制の構築の取り組み（1/2）

概要

- 新潟本社の設置
- 新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力

主な取り組み

<新潟本社の設置>

- 2015年4月、新潟本社設立
 - 県内全域における広聴・広報活動や原子力災害時の避難支援策の検討・実施
- 2018年3月、新潟本社行動計画を策定し、活動拠点として、柏崎市内に「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを開設
- 2019年4月、新潟県の皆さまとのコミュニケーション活動をより強化していくため、柏崎市内のカムフィー2階に地域対応業務の拠点として新たにオフィスを開設
 - 「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを拠点としていた地域対応要員が、同オフィスへ移転。さらに、フリーアドレスを導入し、新潟本部や発電所内の地域活動要員も利用
 - 広聴活動で得られた地域の声を活かし、地元目線の取り組みを充実させていく

<まもる・そなえる・こたえるオフィス>



<カムフィー>



主な取り組み

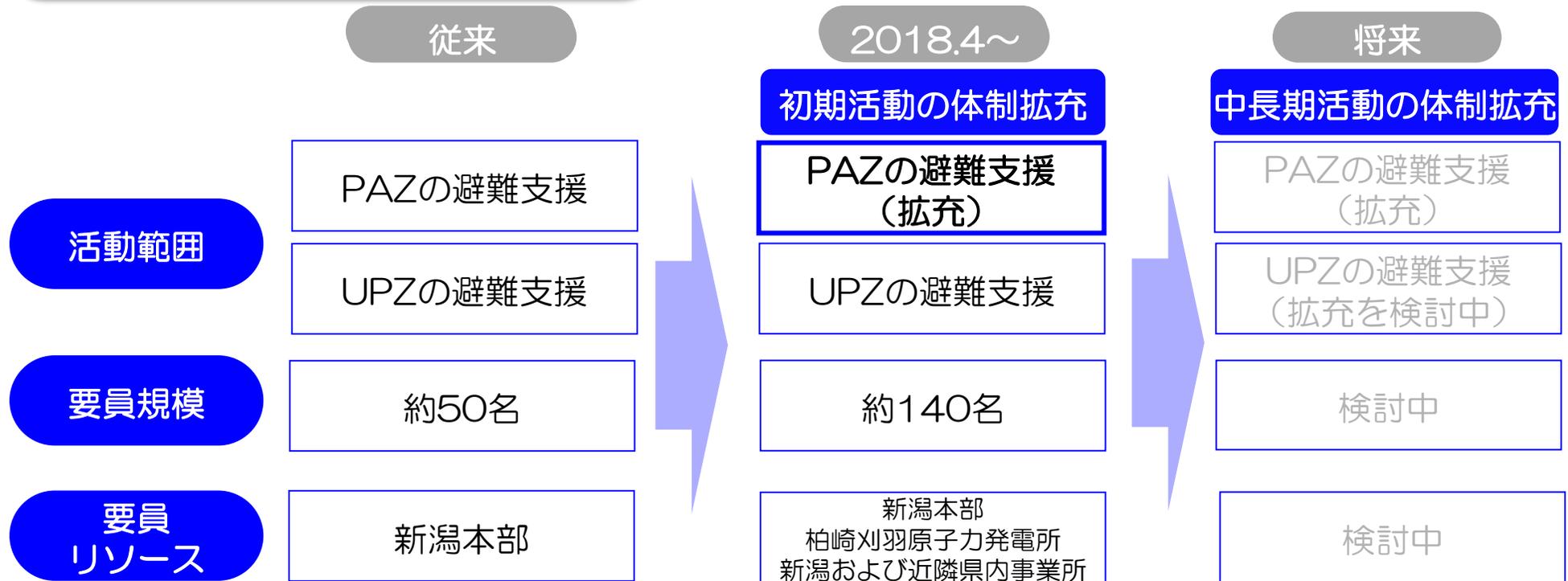
<新潟県知事の掲げる3つの検証へのご協力>

- 新潟県の皆さまの安全・安心のためにも、新潟県が進めている検証作業は重要なこと
であると考えており、ご協力をさせていただきます
 - 新潟県技術委員会
 - ・ 2012年より行われている福島第一原子力発電所の事故原因の検証について、
ご協力させていただいている
 - 新潟県避難委員会
 - ・ 2017年より行われている原子力災害時の避難方法に関する検証について、
ご協力させていただいている
- ※ なお、新潟県技術委員会において、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策についても、
ご協力させていただいている

3. 防災支援の取り組み ① 緊急時の初動体制（1/2）

- 「避難支援チーム」を、2018年4月1日から、新潟本部、柏崎刈羽原子力発電所、新潟県域および近隣県内事業所との協働体制を確立することにより、初動要員を約140名体制へと増員。また、防災や避難支援業務を専門とする社員が柏崎市内に常駐
- これにより、概ね5km圏内(PAZ)の避難支援を行う初期活動の体制を拡充
- 更に、概ね30km圏内(UPZ)の避難支援活動の体制の拡充についても検討中

「避難支援チーム」の増強（緊急時）



3. 防災支援の取り組み ① 緊急時の初動体制 (2/2)

緊急時における初期活動(PAZの避難支援)の体制

- 約140名による初期活動の体制に拡充
- 今後、訓練を重ねてクイック&パワーアップを実現

→ 要員の動き

UPZ(概ね30km圏)

村上方面
避難経路所

新潟本部

PAZ(概ね5km圏)

柏崎刈羽原子力発電所

福祉施設・病院

「まもる・そなえる・こたえる」
オフィス

湯沢方面
避難経路所

妙高・糸魚川方面
避難経路所

新潟および近隣県内事業所

	活動内容	要員 リソース
初期活動	①介護を必要とされる方々の避難支援 (福祉車両・バス等の運転、移動介助)	新潟本部、 柏崎刈羽 原子力発電所
	②福祉施設・病院 (屋内退避施設)の運営支援 (介護補助、物資補給)	
	③PAZ避難経路所の運営支援 (開設、案内・介助、車両誘導)	新潟および 近隣県内 事業所

<介護技術講習>



<福祉車両>



3. 防災支援の取り組み ② 新潟県原子力防災訓練への協力

update

9

- 新潟県が実施する原子力防災訓練に、事業者として最大限のご協力をさせていただくこととしており、これまでに以下の訓練に参加している

<2020年度 当社参加の訓練（実施済み）>

	訓練項目	当社実施内容	当社参加人数
個別訓練	モニタリング訓練（6月30日実施済み）	放射性物質放出後を想定した走行モニタリング訓練 放射性物質による汚染状況を把握するための土壌採取訓練	3名
	スクリーニング訓練（7月29日実施済み）	UPZ住民の避難を想定したスクリーニング訓練	31名

6月30日 モニタリング訓練



汚染状況を把握するための土壌採取訓練

7月29日 スクリーニング訓練



スクリーニング訓練

簡易除染訓練

- 2020年2月、長岡技術科学大学と防災・減災に関する共同研究の包括連携協定を締結し、5つの共同研究プロジェクトを立ち上げており、第2四半期（7月～9月）での進捗は、以下の通り

○ 住民・環境支援技術に関する研究

「アイデア開発道場・生活用水等を確保する技術の開発について」

- 長岡技術科学大学の保有する「微生物を活用した浄水技術」を応用した、安価、省電力で、災害時でも活用可能な浄水器の試作品を大学内のアイデア開発道場に設置



○ 教育・組織レジリエンス向上に関する研究

「地域コミュニティの災害ロバスト性（頑強性）向上」

- 9月19、20日に、長岡技術科学大学と新潟県が主催した「新潟防災シリーズフォーラム」において、共同研究の一環として「防災ワクチンフォーラム」を開催
- フォーラムで得られたノウハウは、今後の共同研究に反映



4. 地域貢献の取り組み ② 地域行事への参加

<2020/7/1～2020/9/30の実績>

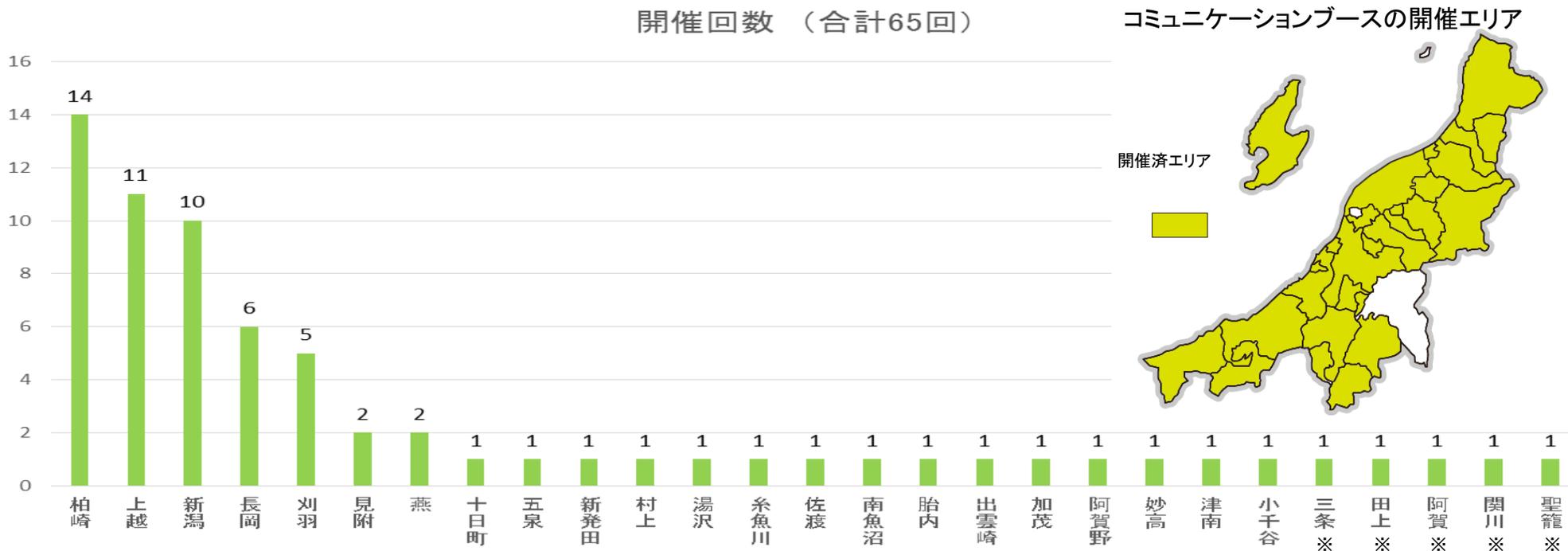
地域行事	実施日	作業内容	参加者数
柏崎港観光交流センター 夕海 オープニングイベント	7/11 7/12	車両誘導員	10名
柏崎・夢の森公園「森づくり活動」	7/18	カキツバタエリアの除草作業	6名
新潟県高等学校 ソーラーラジコンカー競技大会	8/2	会場提供（柏崎エネルギーホール）、 運営サポート要員	4名
柏崎・夢の森公園「森づくり活動」	9/5	森の中の除草作業	9名
段丘さくら草刈り	9/8	津南町に植樹している「段丘さくら」 周辺の除草作業	4名
柏崎市半田地区 除草作業	9/12	除草、ゴミ拾い作業	12名
柏崎港観光交流センター 夕海 イベント	9/20 9/21 9/22	子ども用遊具の運営管理	23名
柏崎刈羽中学校駅伝競走大会	9/25	運営補助	6名
柏崎・夢の森公園「森づくり活動」	9/26	森の中の除草作業	5名
苗場山麓ジオサイクリング2020	9/27	コース誘導要員	4名

5. 傾聴と対話の取り組み ① コミュニケーションブース

実施内容

- 新潟県内において「東京電力コミュニケーションブース」を設置し、県内の皆さまからの疑問やご意見をお聴きするとともに、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の取り組み等をわかりやすくご紹介しております。また、パネル展示やVR（バーチャルリアリティ）等を通じて発電所で講じている安全対策や放射線など原子力発電全般に関する質問にお答えするとともに、さまざまな「声」をお聴きしております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から「コミュニケーションブース」は、3月3日より当面の間、開催を自粛しております。※新型コロナウイルス感染症防止対策および、再開時期については、現在、検討中。



※2つの市町村にお住まいの方を対象として開催し「声」をお聴きしているブースがあるため、開催回数とグラフの合計値は異なります。

(2020年9月30日 現在)

5. 傾聴と対話の取り組み ② 地域の皆さまへの説明会

- 柏崎市と刈羽村において、地域の皆さまからのご意見を伺い、発電所の状況や当社の取り組みをお伝えする貴重な場として「地域の皆さまへの説明会」を実施しております。

開催実績（新潟本社設立以降）

日時	場所	参加者数
2015/6/8	刈羽村生涯学習センター ラピカ	64名
2015/6/9	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/21	柏崎市産業文化会館	128名
2015/12/22	刈羽村農村環境改善センター	44名
2016/9/13	柏崎市市民プラザ	79名
2016/9/14	刈羽村 高町地区集会場	24名
2018/1/30	柏崎市産業文化会館	98名
2018/1/31	刈羽村生涯学習センター ラピカ	52名



- 柏崎刈羽原子力発電所に隣接し、発電所のPR施設であるサービスホールは、7月23日にリニューアルオープンしました。
- 3密回避等の感染拡大防止対策を講じた上で、9月30日までに累計5,481人の方にお越しいただきました。

リニューアルオープン後の館内の様子

<柏崎刈羽原子力発電所と安全対策>



<原子力発電の運転>



<リニューアルオープンチラシ>



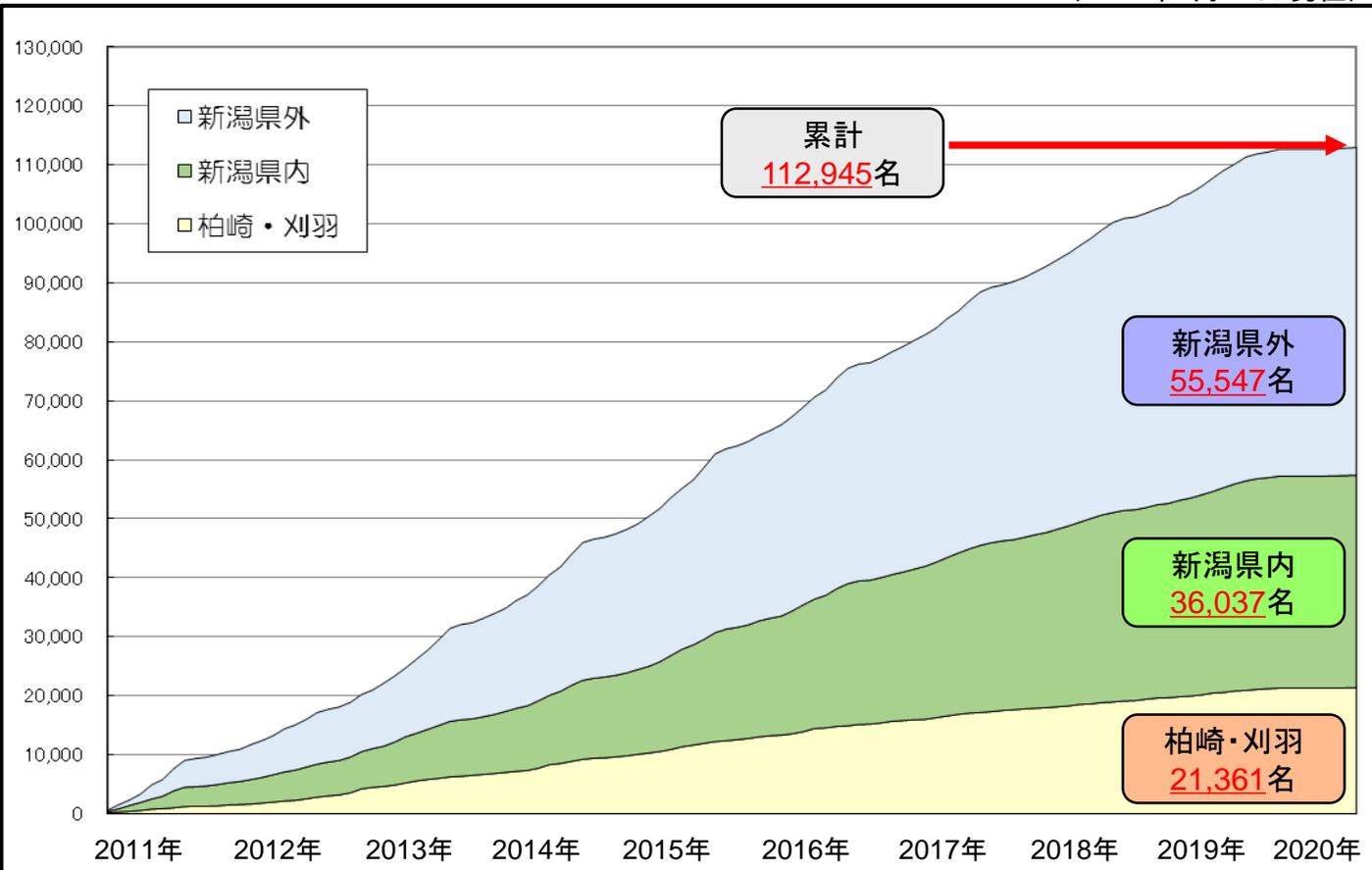
<入口の検温システムで感染防止>



■ 新潟県内をはじめ、多くの皆さまに、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、取り組みを進めている柏崎刈羽原子力発電所の安全対策などをご視察いただいております。

発電所視察者数

(2020年9月30日現在)



【防潮堤 (5~7号機側)】



【貯水池】



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から「発電所のご視察」を中止しておりましたが、7月1日より3密回避等の感染拡大防止対策を講じた上で、実施しております。

■ 福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、柏崎刈羽原子力発電所で講じている安全対策や日本のエネルギー事情、当社の取り組み等を、新潟県内の一人でも多くの皆さまにお伝えするため、各メディアを通じた広告を実施しております。

- 日本のエネルギー事情やエネルギーミックスの重要性、安全対策についてご紹介するWEB広告等を実施しております。
- 地震や雨雲・雷雲、災害時の避難場所など暮らしに役立つ情報をお知らせするスマートフォン向けアプリ「TEPCO速報」のWEB広告等を実施しております。
- 当社の取り組みについて、新聞折込チラシ「東京電力通信」でお知らせしております。



エネルギーのそれ、なんで？ (WEB広告)

東京電力通信

以上